

”未来へつなごう  
学びの力 豊とよの国  
おおいたから“

第74回 全日本中学校長会研究協議会

# 大分大会

期日 令和5年10月25日(水)・26日(木)・27日(金)

会場 ビーコンプラザ・杉乃井ホテル

第74回 全日本中学校長会研究協議会大分大会

「未来へ つなごう 学びの力  
とよ  
豊の国 おおいたから」



74th  
OITA



## 大分大会主題

# 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく 日本人を育てる中学校教育」

### 開催趣旨

激動する国際社会において、我が国では、Society5.0の実現に向けて急速に変化するとともに、グローバル化や少子高齢化等の進行により、近い将来の予測すら困難な時代となっている。

教育界においては、新学習指導要領が全面実施となり、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程の実現、カリキュラム・マネジメントの確立が求められている。また、GIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に公正に個別最適化された学びや創造性を育む学校教育の実現も求められている。さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、社会秩序や人々の生活等を一変させるような事態と子供たちが常に隣り合わせにあることを実証することとなった。

未来を担う子供たちには、様々な変化に主体的に向き合うとともに我が国の伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した日本人として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、よりよい社会を形成していく力を身に付けることが求められている。

そこで、全日本中学校長会は、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、広く国民の負託に応えるべく、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を主題として、研究協議を進めているところである。

本大会においては、これまでの研究の成果を踏まえ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の充実発展を期するものである。





## 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会 大会会長

全日本中学校長会  
会長 齊藤 正富

第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会は、4年ぶりに参集形式での開催となります。これまで全日本中学校長会研究協議会は、コロナ禍であっても「校長の学びを止めない」との信念で誌面やオンラインにより開催を実現させてまいりました。大分大会に集い研究協議できることは、この上ない喜びであり、本大会の開催準備を進めてこられた、第74回研究協議会大分大会実行委員長であり大分県中学校長会長 山本 豊様、全九州中学校長協議会、大分県中学校長会並びに事務局の皆様にご心より敬意を表するとともに、御支援・御指導を賜りました文部科学省、大分県並びに大分県教育委員会、別府市並びに別府市教育委員会をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。

コロナ禍は終息していないものの、感染法上5類へ移行したことに伴い、学校では感染対策を講じつつ、ほぼ通常の教育活動を展開しております。このような中、令和3年4月に中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」が示されました。各中学校では、現行の学習指導要領の完全実施と併せて、全ての生徒の可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を展開するとともに、GIGAスクール構想の下、「一人一台端末」を活用する指導方法の改善も進めてまいりました。こうした経験を踏まえ、単に以前のやり方に戻すのではなく、新たな教育活動の構築を念頭に、生徒の「学びの保障」を実践していくことが重要であると考えております。

さて、いわゆる「骨太の方針2023」と「次期教育振興基本計画」が6月に閣議決定されました。「骨太の方針2023」には働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進めるために、来年度からの3年間を集中改革期間として施策を進めることが明記されました。一方、「次期教育振興基本計画」では「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトに、今後の教育施策に関する5つの基本的な方針が示されました。私たちはこれらの具現に向けた教育への期待に応える必要があります。また、多様な生徒への適切な対応、「デジタル教科書」の活用、社会の変化への対応など、今日まで教師としての経験と実践だけでは解決できない課題も山積しております。今後、これらの対応のため高度な専門性を有する人材を円滑に活用するマネジメントも必要となってまいります。全日本中学校長会として、関係諸機関と連携を図り、校長の知恵と情熱を結集してこれらの解決のために、ともに前進してまいりたいと考えております。

こうした状況にある今日、『未来へ つなごう 学びの力 豊の国 おおいたから』を大会スローガンに「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を主題として開催される第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会の成果が、今後の学校経営に確実に結び付くとともに、我が国の中学校教育の更なる発展及び充実に繋がるものと信じております。今回の大分大会の成果が次年度の岩手大会に引き継がれますことと、全国の会員の皆様、お一人お一人の更なる御活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



## 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会 実行委員長

大分県中学校長会  
会長 山本 豊

第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会が、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」という研究協議会主題のもと、大分県別府市で開催できますことは、大分県中学校長会として大変光栄に感じています。

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、日常における基本的な感染対策については、個人や事業者の判断に委ねることが基本となりました。令和2年1月に国内で初の感染者が確認されて以来、私たちの生活は一変し、人々の生活や経済活動、学校・教育現場にも大きな混乱をもたらしました。

全日本中学校長会研究協議会におきましても、和歌山大会、静岡大会、北海道大会が書面あるいはオンライン形式での開催となりました。関係の中学校長会の皆様方におかれましては、大会開催に向けた長期間にわたる準備、開催方法の変更やその周知・運営等、多大なるご尽力に対しまして、厚く敬意を表します。

今回、4年ぶりの参集形式での開催となります大分大会では、これまでの大会を通して積み上げてきた伝統と研究の成果を引き継ぐとともに、参集形式の良さを感じていただけるような大会となるよう準備を進めてまいりました。人員不足と経験不足は否めませんが、全力で大会を運営してまいります。皆様方の御協力をお願いいたします。

さて、本年3月、中央教育審議会が「次期教育振興基本計画について（答申）」を取りまとめ、6月には新たな教育振興基本計画が閣議決定されました。本計画では教育政策におけるコンセプトとも言うべき総合的な基本方針として「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げています。

本大会において「全日中新教育ビジョン」の趣旨を踏まえた8つの分科会研究題に迫る各地域や学校における成功事例や先進的な取組を共有できますことは、新たな時代に向けた教育施策を推進するために、極めて有意義なことと考えます。また、文部科学省説明や講演会等を通じて、様々な情報交換を行い、得られた知見や情報を新たな方策に結びつけ、今後の学校経営の更なる充実を活かしていただければ幸いです。

アフターコロナという転換期を迎えた今、私たち校長は、学校経営の責任者としての使命感と確固たる教育理念をもち、課題解決に向けたビジョンを明確にするとともに、創造力と柔軟性を兼ね備えたリーダーシップが求められています。本大会を通して、全国の中学校長相互の連携や協力が深まり、意義深く実りの多い研究大会になることを願っています。

結びに、本大会の開催にあたり御指導・御支援を賜りました文部科学省、大分県、別府市、大分県教育委員会、別府市教育委員会、全日本中学校長会、全九州中学校長協議会をはじめとする、多くの皆様方に心より感謝と御礼を申し上げ、挨拶といたします。